

# 住民による地域のための再生可能エネルギー!

## 住民参加型太陽光発電事業

### ひっぽ電力



ひっぽ復興発電所1号

### 今後、筆甫地区全体の電力量を超える発電量に!

今後さらに13基の発電所を建設し、順次稼働する予定です。平成30年8月までには予定している全ての発電所が稼働し、全て稼働すると、計算上、筆甫地区全世帯分の使用電力量を超える発電量となります。

ひっぽ電力株式会社は、東日本大震災後、再生可能エネルギーを通じた地域の再興とエネルギーの自立を目的に、地元の有志が集って設立されました。

平成28年9月、旧筆甫中学校校庭にてひっぽ復興発電所1号(太陽光)が売電開始し、その収益は筆甫地区の地域の振興や福祉事業などに活かされます。

所在地	伊具郡丸森町筆甫字和田73
アクセス	常磐道山元南スマートICから車で30分(駐車場:無)
エネ種	太陽光発電
規模	発電出力49.5kW
運営主体	ひっぽ電力株式会社
視察可否	視察:○(要事前相談) 説明対応:○
視察内容	発電設備の見学・説明
連絡先	E-mail:info@hippodenryoku.com

## 加美町市民参加型太陽光発電事業

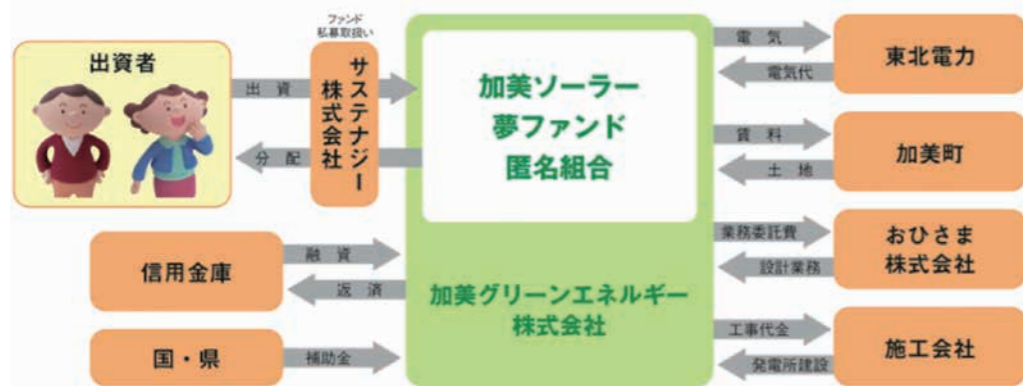


上多田川小学校跡地の太陽光発電所

加美町は「加美町地域新エネルギービジョン」に基づき、環境に優しい再生可能エネルギーの導入推進に取り組んでいます。その取組みの一つとして行われるものがこの「加美町市民参加型太陽光発電事業」です。

空き地となっていた小学校跡地に太陽光発電所を建設し、発電所の建設費用の一部を、町内外の個人や法人から「加美ソーラー夢ファンド」として募った資金により賄っています。出資された方には、発電で得た収益を基に毎年配当が行われます。

所在地	加美郡加美町上多田川字東田北4-1他
アクセス	東北自動車道古川ICから車で約25分(駐車場:要個別相談)
エネ種	太陽光発電
規模	視察:要個別相談 説明対応:要個別相談
運営主体	加美グリーンエネルギー株式会社
活用した補助事業	新エネルギー設備導入支援事業(宮城県環境政策課) 再生可能エネルギー発電設備等導入促進支援対策事業(経済産業省)
規模	発電出力550kW
視察内容	発電設備の見学・説明、市民出資に関する説明
連絡先	TEL:0225-25-6845



## 住民参加型太陽光発電事業

### TOMEGAソーラー・市民オーナー発電所プロジェクト

オーナーである市民・事業者の遊休地を活用し、低圧50kW未満の太陽光発電所(u50:アンダーゴーマル)を建設し、固定価格買取制度により売電を行う事業です。

建設資金の返済が完了するまで、市民オーナー発電所は事業主体の所有となるため、市民オーナーには地代としてメガソーラーの収益が分配されることになります。建設資金の返済が完了して以降は、発電所は各々のオーナーの所有となり、売電収入はオーナーの所得となる仕組みです。



道の駅「林林館」脇に建設された「東和町ほたるの里発電所」

### 災害時、地域への電力供給が可能に!

災害などによる停電時には自立運転モードに切り替えることで、発電中は非常用コンセントを通じ、ソーラーパネルで発電した電力を使用することができます。

所在地	登米市内各所
アクセス	三陸道登米東和ICから車で約5分(駐車場:有)
エネ種	太陽光発電
規模	u50:37基 メガソーラー:2基 計約6MW
運営主体	合同会社とめ自然エネルギー
視察可否	視察:○ 説明対応:○
視察内容	U50、メガソーラーの視察とプロジェクトの概要説明
連絡先	TEL:0220-23-9029

## 廃棄物もエネルギーとして生まれ変わる!

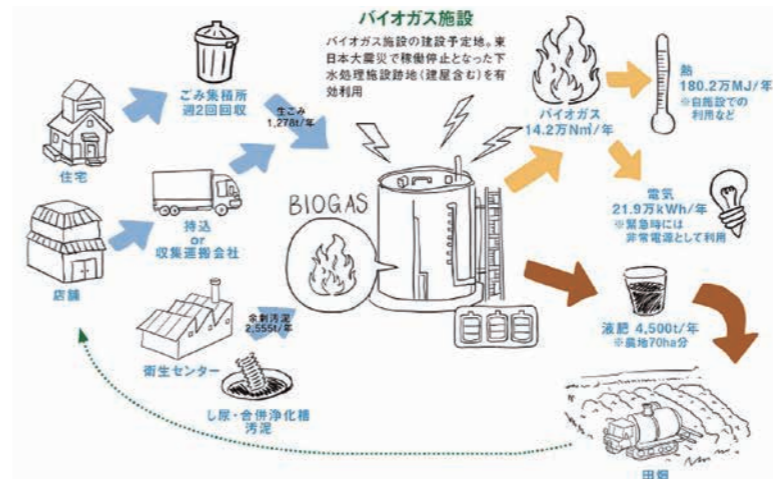
### 南三陸BIO(バイオ)



アマタ(株)のバイオガス関連施設

「バイオマス産業都市構想」を掲げる南三陸町では、地域にあるバイオマス資源を有効活用するシステムを整え、人と環境にやさしく災害に強いまちづくりを進めています。

その中核事業として、これまで廃棄物として処理してきた生ごみなどを、微生物(メタン菌)の力で資源化する「バイオガス事業」を行っています。



液肥は町内に設置した液肥タンクから誰でも無料で使うことができ、今後6カ所から60カ所に増設予定です。平成26年5月には「南三陸液肥利用推進協議会」が設立され、町内で液肥の使用を推進しています。現在、この液肥を利用して栽培したお米を「めぐりん米」としてブランド化し、南三陸さんさん商店街で販売中です。



所在地	本吉郡南三陸町志津川下保呂毛14-1
アクセス	三陸道桃生津山ICから車で約35分(駐車場:要個別相談)
エネ種	バイオマス
規模	処理能力10.5t/日
活用した補助事業	平成26年度 農水漁村第6次産業化対策整備事業(農林水産省)
運営主体	アマタ株式会社
視察可否	一般視察の受入可(研修プログラム有)
視察内容	HP参照: <a href="https://bio.ms-lc.org/">https://bio.ms-lc.org/</a>
連絡先	TEL: 075-277-0795 (アマタホールディングス株式会社広報担当)